

第66回 東北公衆衛生学会

特別講演のお知らせ

平成29年7月28日(金)
13:30-15:00

演題 **生活習慣病予防における
睡眠時無呼吸症候群対策の重要性**
— 大きないびきは、高血圧、糖尿病、脳卒中、心疾患の危険信号 —

講師 **谷川 武** | 順天堂大学
医学部公衆衛生学 教授

場所 **福島県立医科大学 講堂**
〒960-1247 福島県福島市光が丘1番地



講師：谷川 武

講演概要

睡眠呼吸障害 (sleep disordered breathing; SDB) は、睡眠中の呼吸停止や低換気など、睡眠中の呼吸に関する異常な病態の総称であり、SDB に加えて、日中の眠気、集中力の低下、疲労等の自覚症状を伴う場合、睡眠時無呼吸症候群 (sleep apnea syndrome; SAS) と診断される。睡眠時無呼吸症候群 (SAS) は、高血圧、糖尿病、脳卒中、虚血性心疾患等の生活習慣病のリスクであることが近年知られてきた。

これまでの特定健診・特定保健指導に「大きないびき」を加えることの意義を中心に内外の知見を紹介する。

問い合わせ先 **福島県立医科大学医学部疫学講座**

TEL:024-547-1343 FAX:024-547-1336 E-MAIL:epi@fmu.ac.jp